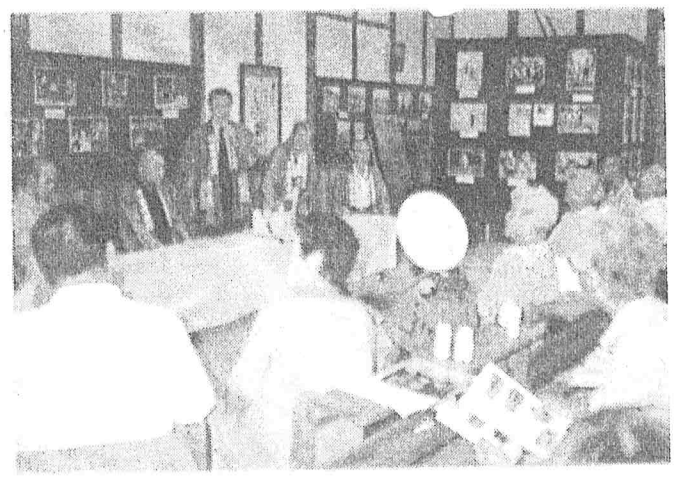
佐原の町並み かわら版

第２８号
平成12年８月
発行　小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会

水戸市浜田町から視察団来佐


正上穀倉での交流会

七月十九日、水戸市浜田から、「住みよい浜田をつくる会」推進委員を中心としたメンバー三十三名が来佐しました。

これは水戸市竹隈公民館の主催で、佐原の町づくり研修、町並み見学及び交流が目的でした。

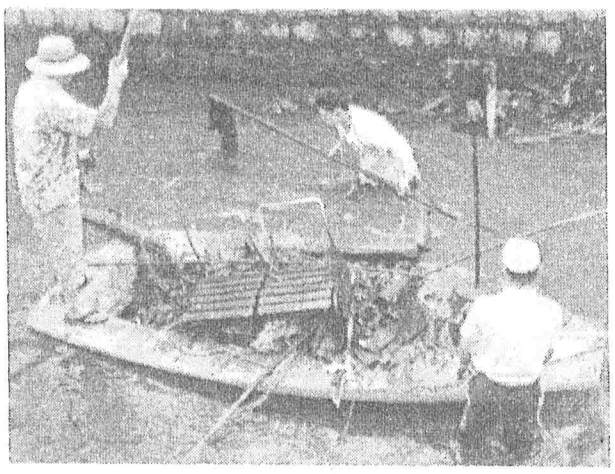
視察交流会は、十一時から正上穀倉で行われ、「考える会」の加瀬代表、「案内ボランティアの会」の吉田会長を始め七名が出席。

加瀬代表から「考える会」の活動を報告。重要伝統的建造物群保存地区選定までの苦労話し、三菱館や町中での観光案内など、まちづくり活動の説明に、皆熱心に聴き入ってました。その後の質疑では、次の事項が話題となりました。

一　考える会の会員構成について
二　伝建地区の建物規制について
　　それに対する住民の考え方
三　河川清掃と柳の管理について
四　川の水質対策、水位の調整について

浜田も佐原同様、町中を川が流れていることから「川」に対する関心の強さが感じられました。

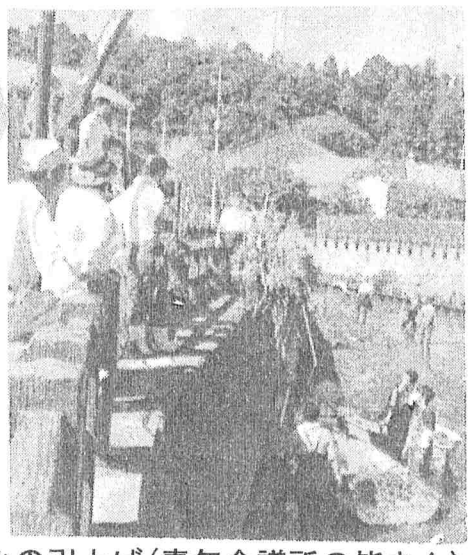
猛暑もいとわず汗を流した小野川清掃


ごみの重さで沈みそうな舟

どうして、川にこんなものが？誰が投げ入れた？と思う物体が、次々と引き上げられる。また、護岸に張り付く雑草や下草の刈取り作業を会員のほか、ＪＣ（青年会議所）と建設業界のご協力をいただき実施しました。

七月三十日(日)、八時半から作業を開始。朝から二十九度を超え、日中には三十五度という猛暑の中、ＪＣの皆さんは樋橋上流、考える会は開運橋までの下流を行った。

草刈りと並行しての川底浚いは、腰まで水に浸かりながら、ゴミを一つひとつ上げる。悪臭とともに出て来る、出て来る、奇妙な物体に驚かされた。酒ビン、鉄骨付きコンクリートの残骸、金属性ベンチ、七メートル余りの鉄棒など、三隻の舟に満載のゴミ。毎年実施しているのに、どうしてゴミの大漁になるのか。目も眩む強い日差しが刺す状況の中で続けられた。


ごみの引上げ（青年会議所の皆さん）

昼近く、清掃前とはうって変わり、清々しい石積み護岸と、柳の枝垂れる川面が現われて来ると、参加者は汚れと二、三日はとれないほど、体に付着したヘドロの悪臭も忘れ、眺め入っていました。

この風情をいつまでも保てるよう、川をきれいに、大切にする意識を一人ひとりが強く持って欲しい。「考える会」からも呼びかけていきたい。

清掃後のすっきりした小野川べり

晴天に恵まれた夏祭り

祭り中日の十五日薄暮の中、八坂神社前で厳かに行われた年番引継式。年番八日市場区長の「平成十年に年番をお引受して以来、本日まで、前後町様を始めとし…」口上を受け、後年番浜宿区長「ご一同様、只今ご確認のとおり、私共が年番を…」と大勢の見守る中、粛々と執り行われた。口上後は、手打ちの拍子「打ーとせシャンシャン、もひとつせシャン〈〈、両手三度シャン〈〈、きまりシャン」と独特の手打ちで、伝統ある祭の儀式が終了。

派手やかなサンギリが順次打ち出され、山車が動き出します。その頃は、日中の暑さもおさまり、変わって見物客の熱気があふれます。

好天に恵まれた今年の夏祭り、伝統と活気にあふれた三日間、総勢二十二万人の人出でした。

年番引継式

町角話題

佐原囃子の音色に魅せられて、夏・秋合わせて三十回以上も見に来ているという祭大好きおじさんが、今年も案内所に元気な顔を見せてくれた。偶然にも奥さんは中学時代隣のクラスの人だった。

「東京から佐原へくる間にも、車の中でカセットテープをかけて、何度も浮かれているんですよ。」と、にが笑い。

地元以外の、こうした祭ファンにも支えられて佐原の祭が継続されていると思うと、市民として本当に嬉しいですね。